



性的少数者の人権尊重の第一歩 (若林苗子/桜町)

2年前の2018年、杉田水脈衆議院議員が、「性的少数者は子供を作らない、つまり『生産性』がないのです。」という差別的な主張をし、それに対し今迄にないほどの抗議行動が広がった。(最近同議員は、女性への暴力や性犯罪に関して「女性はいくらでもウソをつけますから」と発言、批判されている。)

同年10月、市民自治こがねいは、自ら女性同性愛者と公表している尾辻かな子衆議院議員を招き、イベント「アクション!多様性を尊重する社会をつくろう」を開催した。その時には、三鷹市と調布市の性的少数者(LGBT)の人達にもそれぞれの活動を報告してもらった。そしてこのイベントの参加者が呼びかけ、小金井で性的少数者が安心して暮らしていけるように「多様な性を尊重する小金井の会」が結成された。

2019年3月、会は市議会に「同性パートナーシップの公的認証制度の導入を求める陳情書」を提出、

3月、6月議会で継続審査になったが、9月議会で採択された。

2020年10月20日「パートナーシップ宣誓制度」がいよいよ小金井市でも開始した。社会に根強くある無知からくる偏見・差別のため、いまだに性的少数者が自らのセクシュアリティを公にすることは難しい。今回のパートナーシップ宣誓制度の開始は性的少数者の人権を尊重する、その一歩になると思います。良かったです。

(また、会は2020年3月議会に「小金井市第6次男女共同参画行動計画」に、多様な性を尊重する市の姿勢と、具体的な施策を明記することを求める陳情書」を提出。6月議会で全会一致で採択されました。)

★多様な性を尊重する小金井の会
<https://www.facebook.com/tayounasei/>

パートナーシップ宣誓制度の開始に際し、思うこと (ユウ/前原町)

昨今、全国の自治体でも広がるパートナーシップ宣誓制度が、2020年10月20日より小金井市でも開始しました。10年前ではLGBTという言葉すら日常では全く耳にすることがないほど私たちの存在が知られていなかったことを思うと、本制度の開始はとても喜ばしいことであり、またそれと同時に平等な権利や保障を得るための道のりにおいては、まだまだ最初の小さな一歩であると感じます。

異性間の婚姻においても、最も法的な保障や権利を実感するのは日常生活において大事が起きた時だと思います。パートナーのいずれかが病気になったとき、災害や犯罪に巻き込まれたとき、死別した時。現状、婚姻のような法的権利を得られない同性カップルは、パートナーシップ制度の申請をしていたとしても、上記のような大事に見舞われた際には何も保障されません。

異性間のカップル以上に不安を抱えて生活しているのです。

LGBTはあくまで社会的少数者の一部です。あらゆる社会的少数者にとって生きやすい社会は、他の多くの人々にとっても生きやすい社会になるはずです。

今回のようなパートナーシップ制度がより多くの自治体に広まり、法的な権利や保障を得られる制度へと昇華していくことを心から望んでいます。



▲パートナーシップ宣誓書受領証の受け取り。

会員を募集しています
&カンパ大歓迎!

- 会費 1口 = 3000円/年
- 賛助会員 1口 = 1万円/年
- ニュースカンパ 1口 = 1000円/年
- 郵便振替 00130-6-352041
市民自治こがねい



市民自治こがねいで検索!
<https://www.sijiko.com>

編集後記

PCR検査受けました、手術前検査の一環で。シロでした。海外から帰国した同僚は検査後、毎日保健所から電話をもらい報告したそうですが、職員の方はかなり疲れている様子で、SNSなどを活用したもっと簡単な方法にすればいいのと言っていました。検査が未だに制限されている理由はこんなところにもあるのでは。(Y.S)

デザイン/H.S



散歩だより

2020年11月21日発行

編集・発行 市民自治こがねい
〒184-0012
小金井市中町1-2-47 佐藤気付
TEL:090-6014-3566
<http://www.sijiko.com/>

10年に1度の策定ラッシュ! 小金井の将来像と道筋を示す中長期計画 市民参加のチャンスを活かそう!

現在、小金井市では、最上位計画である「第5次基本構想」をはじめ様々な分野の5年から10年の中長期計画の策定作業が行われています。計画は、私たちのこれからの暮らしやまちづくりに密接のものばかり。そのため、小金井市市民参加条例では次のことを義務づけています。

1. 重要政策の企画・策定等について審議会・策定委員会等を設置すること。
2. そこには有識者・関係団体の推薦に加え、30%以上の公募の市民委員を加えること。
3. 「市民の提言制度」(パブリックコメント)では、広く市民に意見を求めること。

会議は公開で、市民はだれでも傍聴ができ、会議録はホームページで公開されます。また、「市民協議会」など市民が参加できる場が設定されることもあります。このように、さまざまな市民参加を通じ、計画が策定されています。

審議会、策定委員会の市民委員の募集や開催予定は市報やホームページに掲載されます。傍聴しパブリックコメントを送りましょう。委員の募集があった時には手を挙げてみてはいかがでしょうか。市民参加のチャンスを活かしましょう。

基本構想・再度パブリックコメント

最上位計画の第5次小金井市基本構想・前期基本計画(案)は、コロナウイルス関係の記載を加えることなどの審議の必要から、計画策定期間を延長し、再度パブリックコメントを行うことになりました。来年4月に答申後、市議会での審議一承認、2021年9月に策定となります。

現在策定中の計画など

()内は計画が実施される期間
都市計画マスタープラン (10年)
農業振興計画 (10年)
(仮称)保育計画 (なし)
第6期障害福祉計画 (3年)
第2次地球温暖化対策地域推進計画 (10年)
(仮称)第6次男女共同参画行動計画 (5年)
(仮称)行財政改革プラン2025 (5年)
第2次芸術文化振興計画 (5年)
第3次明日の小金井教育プラン (5年)

このほかに、まち・ひと・しごと創成総合戦略、産業推進プラン、緑の基本計画など10以上(市ホームページを参照しました)



はけでオオタカの幼鳥が撮影されました

9月初旬に、都市計画道路予定地の近く、「はけの森97階段」付近でオオタカの幼鳥が撮影されました(撮影は東町5丁目在住のMさん)。

オオタカは準絶滅危惧種の猛禽類で食物連鎖の頂点にいます。オオタカがいるということは、その周辺の自然が生態系豊かであることを示しています。

道路ができ、昼夜かまわず車が走り、夜もライトが照らすと、オオタカは巣を捨てるのではないかと心配されます。はけの自然を象徴するようなオオタカの存在、守っていききたいですね。

都市計画マスタープラン

都市計画道路について思うこと (安永千秋/東町)

小金井市の一番の魅力は、南北2つの都立公園。某テレビ番組でもそう紹介されていたと思います。

私の家に近いはげ(国分寺崖線)と野川と武蔵野公園の一角でも、老若男女を問わず多くの人達が運動や散策をしたり、ベンチに座って景色を眺めたりと、緑の中で過ごす時間を楽しんでいます。コロナ禍の自粛期間中には、休校で行き場のない子供達がたくさん川遊びや虫取りに訪れ、地元をよく知らないお父さんを案内するといった光景を目にしました。この恵まれた自然環境の価値に、少なからぬ人達が気づいたのではないのでしょうか。

▼野川からはげの風景



この地域は、狸などの野生動物、カワセミやサギなどの野鳥、昆虫類、更に在来種の植物などが共存する貴重な場所でもあります。野川がコンクリートで固められた川にならないように、地域の住民の方々と行政の努力によって保たれてきた賜物と思います。

ところが、この地域を分断する2本の都道の計画が、多くの住民の反対や、計画の見直しを求める小金井市議会の決議にもかかわらず、東京都によって進められています。はげの斜面を縦断する道路建設には巨額の費用を要し、周辺一帯の生態系は破壊されるでしょう。多様な生物によって構成されている生態系は、一度破壊してしまうと元に戻すことはできません。それだけでなく、多くの住宅を潰して住民を追い出し、周辺の環境やコミュニティも変えてしまいます。

自然環境を守ることは、結局自分たちと子供たちの未来を守る事なのではないのでしょうか。

都市計画道路と都市計画マスタープラン

現行の都市計画マスタープランで「整備推進」とされた都市計画道路が、自然破壊への懸念が高まる中、新たな策定において、いかに記されるのか、注視されています。

農業振興計画

農が身近にある暮らし (都市農地活用支援アドバイザー・松嶋あい/本町)

小金井市は大きな公園に囲まれ、豊かな緑ときれいな湧水が魅力です。また農地が点在し、地産地消ができる恵まれた地域でもあります。私は今回の自粛期間中、ファーマーズマーケットや直売所で小金井産の安心安全な野菜が手に入ることが、本当にありがたいことだと実感しました。

農地は野菜を生産するだけでなく、防災、福祉、教育、食育、地域振興などたくさんの機能を持つ緑地であり、私たちの生活を支えています。けれども生産者の高齢化や担い手不足、相続などで農地が年々減り、小金井市でも一年に約1haの面積の農地が失われているのです。

私たちにできることはささやかですが、ファーマーズマーケットや直売所で野菜を買ったり、地場野菜を使った飲食店を利用すれば、小金井の農業を支え、農地を活かすことにもつながります。

また市民農園の利用、収穫体験や農ウォークなど、

農地に親しみ土に触れることで、癒し効果も得られます。自粛期間中に家庭菜園を始めて、農が身近にある暮らしを楽しむ方も多くなりました。

5年、10年後、農地が新たな地域コミュニティの場となり、市民が農業とつながることで、心豊かに暮らせる小金井市であることを願っています。

▶貫井北町の農家の軒先の野菜販売所

▼小金井市内の畑



障害福祉計画

知ってほしい、移動支援が必要な理由 (A.T/桜町)

息子は現在車いすと歩行器で通う地域の小学校在籍の小学6年生です。

入学から親の付き添いを条件に登下校してきましたが、5年生の3学期から1人登下校ができるようになりました。

それまでの5年間は、親の付き添いへの疑問や苛立ちの日々。だからこそ、心待ちにしていた登校初日は、周りの心配をよそに、嬉しそうに登校していきました。その後の息子の成長は著しく、前向きな言動につながっていると実感しています。

来年度からは中学へ進学、その先は高校受験です。移動面で希望できる高校が限定される事を今から懸

念しています。自分の身体を理由に、また自分自身を責めるのかと思うと心が痛みます。

移動は肢体不自由児にとって大きなハードルです。そして、それは通学に限らず日常生活を送る上でも重要であり必要不可欠です。それを親がいつまでも支援していくことは自立への成長が望めません。他の方々と同じ土俵に立つための支援です。移動支援が確立されることで、息子だけでなく私たち家族も豊かな生活が保障されます。

ぜひ、通学・通院・通勤における移動支援について小金井市でも対応をお願いします。



(仮称)保育計画

保育ビジョンを見届けたい (岡田ひろ/緑町)

小金井市保育計画策定委員会は、保育を希望する家庭及びその子どもが等しく保育サービスを受け、子どもが健やかに成長できるよう、市民、関係団体等から多様な意見を聴取し、検討等を行うため2019年3月から設置されました。

保育の質のガイドライン(保育の質の維持・向上に関して市全体で共通し得る枠組み)と今後の保育施策として取り組むべき方向性を示すための話し合いが行われています。

私がこの会議を注視し始めたのは、2002年より小金井市が示している公立保育園民営化問題からでした。話が出てから20年近くたっても利用者や市民へ未だ十分な説明や議論がされないまま、保育課は

スケジュールだけを打ち出してくる中で、議会から小金井市としての保育ビジョンもないままに民営化するという矛盾を問われて、市長も保育ビジョンは必要とし設置に至りました。

小金井の保育を必要とする子どもたちのために、保育者にとって保育の意義を共通認識でき、現場で活用できるガイドラインを作るために、委員の熱意が素晴らしいです。利用者だけでなく広く市民の皆さんにご注目いただき、小金井の保育ビジョンがどのようなものになるのか見届けましょう。

地球温暖化対策地域推進計画

過酷な未来を回避するためにバックカastingで! (漢人明子/緑町)

地域をあげて取り組む、温室効果ガス排出抑制の推進を目的とした地球温暖化対策地域推進計画は、いま、来年度からの第2次計画を策定中です。

9月の策定委員会で示された、この計画の核心となる温室効果ガス削減目標は「2030年度に2013年度比26%」でした。これは世界的非難を浴びている日本政府と同じ目標。できそうなことを積み上げた結果の数字とのことでガッカリです。パリ協定の気温上昇1.5℃未満を達成するために国連が求めているのは45%削減、EU議会は先進国の責任も含めて

60%削減を議決しました。「平均気温4.4℃上昇、気候災害激化の過酷な未来」を回避する、ありがたい未来像から逆算して、いま何ができるかを考えるという発想が必要です。

160以上の自治体が2050年ゼロカーボンシティ宣言、40以上が気候非常事態宣言をしてリードするなかで、政府もやっと「2050年温室効果ガスゼロ宣言」をしました。2030年目標も見直されるはずです。小金井市にも政府の後追いではない大胆な計画と実践を期待します!